



## 会議通訳者の素質

関川富士子  
aiic<sup>(1)</sup> 会議通訳者

通訳の場で、

「トリリンガルの娘が通訳になりたいと言っているんですよ。どうしたら通訳になれるか。」

と尋ねられました。「どうしたら」というのは、「なにを勉強したら」という主旨の質問と思いますが、勉強の方法や内容でしたらさまざまな文献<sup>(2)</sup>に詳しく記載されています。もちろん、日本に住んでいるのか、外国に住んでいるのかで異なる点もありますが、勉強の仕方そのものはどこにいても同じではないでしょうか。私としては「どうしたら」ということを考える前に、「自分は(ないしは本人が)通訳者に向いているかどうか」も考えていただければと思います。その際の「向き不向き」は語学力のことではありません。語学力は正しい方法で努力しつづければ一定のレベルまで向上します。<sup>(3)</sup>しかし、生まれつきの素性というか性向というか、変えることが難しい素質もあります。このことについて考えてみましょう。

一度

「通訳者の条件を挙げてみて。」

と言われて挙げたのが、次の5点でした。

1. 学ぶことが好きなこと。
2. 好奇心が旺盛なこと。
3. 完璧主義者でないこと。
4. 人並みの気力と体力があること。
5. 普通の社会性があること。

以上は、ぱっと思いついたことを挙げた結果です。ご覧のように、ここに語学力は含まれていません。もちろん、最低二ヶ国語ができなければ通訳者にはなれませんが、学ぶことが好きならば、語学力はある程度の水準まで向上します。もちろん、ピアノが好きな人誰もがコンサートピアニストになれるように、あるいはバレエが心底好きでも皆がプリマバレリーナになれるように、語学が好きで、通訳が好きで、一生懸命に勉強しても「超ベテランの安定した会議通訳者」になれる人もいるでしょう。なかには商談通訳のほうが得意だったり、通訳ガイドのほうに性格にあっていたり、通訳技術を教える才能に恵まれている人もいるでしょう。それぞれ「通訳者としての自分の居場所」を見極められるようになれば、それで充分なのではないでしょうか。

しかしながら、上に挙げた5点のひとつでも欠けていたら、最初から会議通訳者になることは諦めたほうが良いのではないかと——20年近く現場に立ち、後進育成にも携わってきた今ではそう思うようになりました。

---

1. Association Internationale des Interprètes de Conférence: [www.aiic.net](http://www.aiic.net)  
2. 以下に、最近読んだものを挙げます。小松達也(2005年)『通訳の技術』、研究社水野真木子、中村眞佐男、梶村和子、長尾ひろみ(2002年)『グローバル時代の通訳——基礎知識からトレーニング法まで』、三修社 新崎隆子(2001年)『通訳席から世界が見える』、筑摩書房遠山豊子(2001年)『入門—通訳を仕事にしたい人の本』、中経出版  
3. 新崎隆子の上述書には、海外に滞在したことも留学したこともない著者の地道な努力が詳細に記述されています。

## 1. 学ぶことが好き

ひとつの分野に特化して、その分野の通訳だけで生計を立てられる通訳者は少ないでしょう。たとえば宇宙航空なら宇宙航空だけで、歯科医療なら歯科医療だけに特化してほかの通訳業務は一切引き受けないで暮らせるだけの業務があったとしても、宇宙航空も歯科医療も日々進歩しています。考古学のように大昔の学問を扱っている分野にしても、新しい発見によってそれまでの通論が覆されてしまうことがあります。つまり、通訳者は現役である限りずっと学びつづければならないのです。「生涯学習」という言葉はまさに通訳者のためにあるのではないかと思えるほどです。辞書を牽くことを面倒がったり、未知の分野の勉強が嫌いだったりすると務まらないのが通訳です。

## 2. 旺盛な好奇心

嫌いな分野を避けていては仕事は広がりません。未知の分野の業務を引き受けて積極的に勉強しなければなりません。でも、おなじ勉強をするにしても嫌々ではなく、楽しみながら勉強しないと長つづきしません。こう考えると、生まれつき旺盛な好奇心をもつ人のほうが自ずといろいろな分野を楽しめ、勉強もつづくのではないのでしょうか。自動車のエンジン開発に関する業務が入ったらエンジンパーツの単語を覚えるだけでなく、「エンジンの機能は」「エンジンと走行の関係は」「エンジン開発の歴史は」「エンジンAとエンジンBを比較したら」と次々に疑問が湧き、その答をリサーチすることを楽しめる人のほうが伸びると思いますし、そういう付随知識が通訳の現場で役立つことも多々あります。通訳業務と離れた日常生活においても常にアンテナを巡らし、いろいろなテーマに関心を持ち、降って湧いた質問に自分で答を探す努力をつづける人のほうがそうでない人より通訳者に向いていると思いませんか。

## 3. 完璧主義者でない楽道家

私が通訳者になる前のことですが、在日ドイツ大使館のヘッド通訳者に「完璧主義者は通訳者には向いていませんが、貴女はどうですか。」と聞かれたことがあります。当時の私は「私は完璧主義者ではないと思います。」といったようなことをもごもご応えましたが、今の私でしたら「私は大ザル<sup>4</sup>ですから大丈夫です。」と胸を張って応えるでしょう。

20年近く通訳を生業としていますと、「通訳に完璧性を求められても困ります。」といえるだけ面の皮も厚くなりました。時間をかけて推敲に推敲を重ねた翻訳でさえ満足できるものが少ないなか、一発勝負の通訳で完璧なアウトプットができることはまずないでしょう。「完璧でない通訳をしてしまった」と毎回落ち込んでいては先に進めません。細かいことにくよくよせず、さっさと気持ちを切り替えることが大事です。もちろん反省は大事ですし、同じ間違いを繰り返さないように努め、分からなかったことは後から調べる地道な努力は必要ですが、性根が楽天的なほうが通訳業に向いていると思います。

## 4. 人並みの気力と体力

通訳業務によっては早朝起きなければならないもの、深夜までつづくもの、もろもろの事情によって朝昼夜の食事を食べ損ねるものなどもあります。そのような状況にあっても通訳者には研ぎ澄まされた集中力が必要です。そうなりますと持ち前の気力と体力で勝負するしかありません。

体力といえば、飛行機で移動する場合は業務に向かう往便では業務関連の資料は手荷物で持ってゆくようになっています。預けたスーツケースが紛失して三日三晩着た切り雀でいても、必要な資料があれば通訳は務まりますから。

---

4. 念のために申し添えますが、「猿」ではなくて、お台所で使う「ザル」です。

市内業務の際でも分厚い医学用語辞典やハイテク用語辞典をもってゆくこともあります。ですから、腕力はあったほうが良いでしょうし、重い荷物をもった際の腰の負担を跳ね返せないとだめでしょう。

業務によっては移動で駆け回らなければならないものもあります。脚の長いドイツ人男性に歩調をあわせながら息を切らすことなく通訳するのは大変ですし、荷物があつたりすると泣きたくなります。<sup>(5)</sup>通訳するロケーションがクーラーのない猛暑のなかや零下突風の屋外のこともあれば、激しくゆれる船上だったり、眼下は奈落の橋だったり、あるいは梯子段を登ってたどり着く高い塔の上や、ロープウェーを乗り継ぐ高山だったりします。通訳者に人並み外れた気力や体力は要求しませんが、お客様に迷惑をかけない程度の気力と体力はあって欲しいですね。

## 5. 普通の社会性

移動の際の荷物の話をしましたが、「それだったらキャリアにすれば良いのでは」と思われた方もいるでしょう。でも、TPOによってはキャリアが邪魔なこともあります。お客様に気を遣わせてしまう場合もあります。「社会性」というのは、ようするにTPOにあった対応ができるか、ということです。TPOにあった挨拶、身だしなみ、言葉遣いを知らなくてはなりません。<sup>(6)</sup>

とくにオケーションのOですが、式典通訳とか商談通訳とかいう類のOとは別に、「自分自身が通訳者としてそこに在るO」を自覚しなければなりません。つまり、黒子に徹する用意です。人前に出て中心に立ちたい人、黒子に徹せない人は生まれつき通訳業には向いていません。外国語能力を活かして自分の性格にもあった職業——(テレビ、ラジオ、式典などの)司会者やジャーナリストなど——を選んでください。また、通訳業は「業務」ですから契約交渉の進め方、請求書の書き方、業務報告の出し方、クレーム処理の方法などビジネスマナーも学ばなくてはなりません。

私はこういうことを一括して「普通の社会性」と呼んでいます。

以上、五つの項目を挙げましたが、このなかで「成人してから意識して身につけられるもの」はどれでしょう。1.から3.は性格の問題ですし、4.の前半の気力も先天的なものではないでしょうか。唯一4.の後半の体力と、5.の社会性だけが本人の意識しだいで変えられるものですが、それも本人が変える必要性を認識し、意識しなければ変わりません。

五つの項目はあくまで私見ですから、勉強嫌いで、好奇心がなくて、完璧主義者で、気力のない人でも優秀な会議通訳者になれるかもしれません。でも、もしなれなかったら、どうしますか。東独出身の通訳科の教授がつぎのように言われたことがあります。

「社会主義のよかった点は、それぞれの才能を早めに見極めて人生設計をしたので、無駄な努力をしないで済んだこと。つまり東独の会議通訳者教育では才能や資質がかわらないと思われた人はどんどんはじき出され、それぞれに見合った職業教育訓練に振り分け直されたが、そうすることによって人生を何年も無駄にしなくて良かった。」

もちろん、自分の人生を自分で決めることが許されない制度が良いと言うわけではありませんが、無礙に反対できない一面もあるのではないのでしょうか。これから通訳者になろうと思っている方は、ご自身の語学力や通訳技術だけでなく、通訳者としての資質にも目を向けてみてください。それがOKだったら、あとは地道な努力のみです。皆様のご健闘を祈ります。

---

5. なかには、「荷物を持ちましょう」といってくださる殿方もいらっしゃいますが、プロの通訳者が自分の業務に必要なものを自分で持てないようでは沽券にかかわるので、お礼だけいってお断りしています。

6. ちなみに、「ドイツ語に敬語はない」というのは間違いです。ドイツ語にも待遇表現はあります。